

## TEAM BLUEが運営する 「おうちにかえろう。病院」が、 2022年度グッドデザイン賞を受賞 ～そっと人生を思い出す場所～

医療法人社団焔 やまと診療所(所在地:東京都板橋区、理事長:安井佑)のTEAM BLUEが運営する「おうちにかえろう。病院」が、2022年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

### ■おうちにかえろう。病院について

やまと診療所では、「自宅で自分らしく死ぬ。そういう世の中をつくる。」を理念に掲げ、2013年から東京都板橋区で在宅医療を提供するなかで、医療グループTEAM BLUEを結成しました。「おうちにかえろう。病院」はTEAM BLUEが2021年4月に開設した病院です。

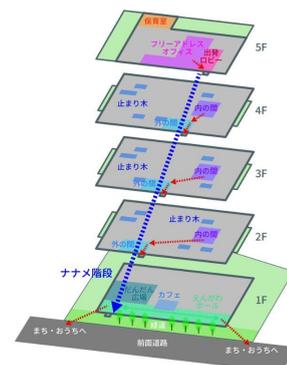
人生の最期は自宅で迎えたいという人が多い中、実際は病院に一旦入院するとなかなか退院できず、病院で最期を迎えるケースが多く、ジレンマを抱えていました。

そこで、在宅医療との連携により、患者がなるべく早く自宅に帰り、自分らしく生きることを支える病院を作ろうと生まれました。「治る病気」の治療よりも「共に抱えて生きる病気」と向き合い、患者の自宅での生活を見据えた治療とリハビリを目的とし、地域との接点も意識して設計しています。

### ■デザイン概要

#### “ひろば”と“ナナメ階段”がつなぐおうちへのかえり道

建物は診療・外来機能を持つ公共性の高い1階と病棟機能を持つ、2、3、4階、スタッフ機能を持つ開放的な5階の3層構成。各階には明るさなど性質の異なるいくつかの“ひろば”が設けられ、建物を斜めに貫く“ナナメ階段”により周りに広がるまちと立体的につながる。ナナメ階段は避難階段の1つを「おうちにかえろう。」を体現するシンボルとして南向きで明るく開放的な階段として配置。入院患者にとってはそこから自分の暮らすまちが眺められ、おうちへと意識が向かうリハビリも兼ねた空間。且つ、より公共性の高い1階へいざなう空間として計画した。病棟や診療スペースから少し距離をとり、スタッフ同士で情報交換をするなどコミュニケーションの場として使われることも意図している。



5階のオフィスは医師や看護師など職種等に依らないフリーアドレス型により、職種内だけではなく患者を中心としたチームでのコミュニケーションの活性化を図った。また様々な家具レイアウトにより異なる単位のコミュニケーションを可能にする。



### 患者とスタッフが居場所を分けず佇める場

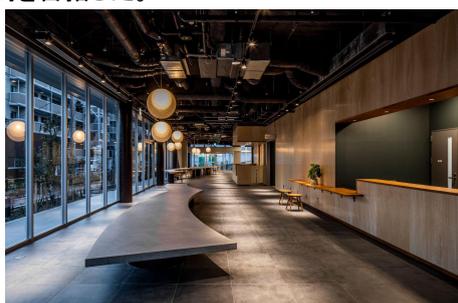
従来の病棟でスタッフ専用のスペースとして設けられるスタッフステーションを解体し、患者との憩いの空間にてんかんしたひろばを“内の間”と名付けた。また逆に、入院患者の憩いの場であるデイコーナーに作業カウンター兼ベンチとなる什器を併設し、スタッフも作業できる空間に転換したひろばを“外の間”と名付けた。これらの空間と前述の止まり木などにより患者とスタッフの居場所を分けず、患者同士、スタッフ同士だけでなく、患者やスタッフ、患者家族が気軽に誰かとコミュニケーションをとったり、一人で物思いにふけるなど各々が選択的に佇める場をつくることを目指した。



### 様々な人が行き交うまちの交差点

ナナム階段で1階に下りるとリハビリ室をえんがわホールと一体化させた“だんだん広場”にたどり着く。ここでは患者の日常的なリハビリや映画鑑賞やコンサートなどのイベントも地域の人と共に楽しむことができ、患者にとって地域の人と交流するまちとの接点となるよう計画した。

東西に伸びる1階のえんがわホールには真ん中に前面道路から交わる小道が用意されている。そこから建物に入ると地域の人も立ち寄れるカフェがある。カフェを利用する地域の方は、えんがわホールやだんだん広場、待合スペースに隔たりがないことで患者と共に自由に空間を使うことができる。このように1階にはこれから地域へ帰っていく患者や関連事業者、地域の人々など多様な人が集うまちの交差点のような空間を目指した。



## ■TEAM BLUEと家族、地域の連携により「おうちにかえる」を目指す

健康で生きたままピンピンコロリ、は一つの理想。しかし現実的にはほとんどの人が「非・健康寿命」を生きることになります。この非・健康寿命の期間を自宅で自分らしく生きることを支えるためにできたのが「おうちにかえろう。病院」です。

開設から1年半が経過し、それが実現できた患者様が増えてきました。急性期病院では「もう施設しかありません」と言われていた患者様が、それでも諦めきれずに転院してきて、スタッフとの関わりの中で少しずつ「おうちに帰りたい」という気持ちを強め、家族や地域の介護者との連携をとりながら準備をすることで自宅へ退院することができました。

今後も勤務する看護師全員が「退院支援看護師」、セラピスト全員が「退院支援セラピスト」であり、地域の多職種と共同して、地域の暮らしを支える体制を強化していきます。

## ■グッドデザイン賞審査委員による評価コメント



変わった名前は、在宅の地域医療を掲げる法人が、一時入院用に設立した病院であるため、まさにその理念をいかに空間化するのが、デザインにとって重要なポイントになっている。ゆえに、都市部において街との距離のとり方を細かく立体的に調整している。すなわち、開放的な1階はカフェ、えんがわホール、リハビリを行う広場がある公共的空間、2～4階は患者とスタッフが交流する「内の間」、南側の共有スペース「外の間」、小さい居場所「止まり木」など、様々な空間を散りばめた病棟、5階はフリーアドレスのオフィスであり、これらのフロアを建物前面に設けられた斜めに連続する屋内階段がつなぐ。

### グッドデザイン賞とは

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

<http://www.g-mark.org/>



## ■法人概要

法人名: 医療法人社団 焔

理事長: 安井佑

設立: 2015年4月

所在地: 〒174-0074 東京都板橋区東新町1-26-14

### 【本件に関するお問い合わせ先】

TEAM BLUE広報担当 03-5926-5095 (平日10時—17時)